

心に残る文化財子ども塾 吉賀町立蔵木小学校

1. 活動の概要

6月23日(月)、吉賀町立蔵木小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに吉賀町教育委員会の方から、学校周辺にある遺跡について話を聞きました。自分たちの住む町に遺跡がたくさんあることを知った子ども達はとても驚いた様子でした。また、町内で出土し本物の土器に触れて、いにしえの人々の生活に思いを馳せていました。

次に、県埋蔵文化財調査センターの職員から土器の作り方や文様の付け方の説明を受けて、土器づくりに挑戦しました。土器づくりは思ったより難しく時間もかかりましたが、最後には遺跡から出土するような土器を完成させた子どももいました。

土器づくり後に再度出土品を観察した子ども達は、古代人の技術にあらためて感心した様子でした。

2. 活動の様子

1)学校周辺の遺跡について学ぶ



「吉賀町には遺跡がいくつあるかな?」「3つぐらい」



「吉賀町内には約130の遺跡があります。」

2)古代体験活動～土器づくり～



教室を出て土器づくりスタート!



粘度のひもを積み上げて形を作っていきます



「上手に作っているなあ…」



出土品のような出来ばえです

3. 子ども塾を終えて

1)子ども達から…

- ・土器作りは思っていたより時間もかかったし、たいへんだった。
- ・土器に使用する土のことを知りたい。
- ・たくさんの遺跡が吉賀町にあった。
- ・勾玉作りとかほかのものも作ってみたい。
- ・鋤を使ってみたい。

2)担任の先生から…

- 子どもからの質問の時間をとればよかった(時間オーバーになるが…)。
- 子どもたちの心に残った。古代の人の生活の一端を知る良い体験活動になった。
- 今後も続けてほしい。

3)埋文センターから

学校の周辺や自分達の家の近くに、多くの遺跡があることを知った児童のみなさんは驚きの声をあげていました。自分たちの住む町が古代から住みよい環境だったことを知るきっかけになったのではないのでしょうか。また、実際に遺跡から出土した出土品を観察して、縄文土器の芸術的な文様や弥生土器の薄くシャープなづくりに感心した様子でした。土器づくりでは、思い通りの形につくりあげるのに苦労しているところも見られましたが、みんな最後までがんばりました。いただいたアンケートでは「学習の時間が短かった」との回答が多くありました。時間が短かったために土器を十分に作りこめなかった点は反省して今後に生かそうと思います。